

# 事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

77

有害鳥獣捕獲等事業

[長期総合計画]

分野別目標	1	安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
政策	3	農林水産業の活性化
施策	1	農林業の振興
取組方針	4	農業と環境の共生

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	農林水産業費		
	項	農林緑花費		
	目	林業振興費		
	大事業	林業振興事業		
	中事業	有害鳥獣捕獲等事業		

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	農林水産課	清瀧 篤樹 435-1049
事業実施の根拠法令			関連課			

## 1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要				
	イノシシ・アライグマ等による農作物被害を軽減し、農林業の振興を図る。		猟友会員の有害鳥獣捕獲に対し報償金を支払うことで、捕獲数を向上させ、有害鳥獣の個体管理を行う。また、アライグマの捕獲及び処分業務を委託することにより、特定外来生物による農作物被害及び生活環境被害の軽減を図っている。さらに、和歌山市鳥獣被害対策実施隊による捕獲及び指導・啓発活動、農地への防護柵設置に係る費用の補助等により更なる農作物被害の軽減を図る。				
事業内容			平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度
			有害鳥獣捕獲許可及び「和歌山市防除実施計画」に基づく捕獲依頼事務等	有害鳥獣捕獲許可及び「和歌山市防除実施計画」に基づく捕獲依頼事務等	有害鳥獣捕獲許可及び「和歌山市防除実施計画」に基づく捕獲依頼事務等	有害鳥獣捕獲許可及び「和歌山市防除実施計画」に基づく捕獲依頼事務等	有害鳥獣捕獲許可及び「和歌山市防除実施計画」に基づく捕獲依頼事務等

## 2 事業コスト

事業費等(千円)	平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和02年度		令和03年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	18,895	22,201	17,740	20,525	16,574	18,805	18,670	0	18,670	0
伸び率(%)	20.6%	13.8%	△6.1%	△7.5%	△6.6%	△8.4%	12.6%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	3,829	1,835	4,636	7,353	8,699	9,021	8,538	0	0
	正規職員以外	7,691	8,116	4,739	4,662	2,190	2,190	2,190	0	0
	小計	11,520	9,951	9,375	12,015	10,889	11,211	10,728	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	4,751	6,359	4,751	5,908	4,751	6,633	5,947	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0
一般財源(税等)	14,136	15,834	12,989	14,617	11,823	12,172	12,723	0	18,670	0
所要人数(人)	正規職員	0.48	0.23	0.58	0.92	1.08	1.12	1.06	0.00	0.00
	正規職員以外	3.08	3.25	1.91	1.92	0.96	0.96	0.96	0.00	0.00
主な予算内訳	業務委託料 9,696千円									

## 3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
野生イノシシ捕獲実績頭数		頭	目標値	1000	1300	1300	1300	1300
			実績値	996	1048	968		
			達成度(%)	99.6%	80%	74.5%	%	%
野生アライグマ捕獲実績頭数		頭	目標値	300	300	300	300	300
			実績値	179	244	230		
			達成度(%)	60%	81%	77%	%	%
野生イノシシ捕獲実績頭数		頭	目標値	1000	1300	1300	1300	1300
			実績値	996	1048	968		
			達成度(%)	99.6%	80%	74.5%	%	%
野生アライグマ捕獲実績頭数		頭	目標値	300	300	300	300	300
			実績値	179	244	230		
			達成度(%)	60%	81%	77%	%	%

#### 4 事業の評価

評価基準				
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない
				減少している
				見直しが必要
				市が行う必要性は薄れている
				緊急性は薄い
				できない
				達成していない (70%未満)
				貢献度は低い
				できる
				見直しが必要

#### 5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	有害鳥獣対策は本市の農業振興また市民生活を守る上で、重要な問題である。イノシシ・アライグマ等による農作物被害に加え、最近では生活環境被害が増加している。捕獲と併せて防護柵設置の普及を図り、農作物被害の軽減を進める必要がある。
見直し・改善内容	有害鳥獣においては、近年農地だけではなく市街地にも出没する事案が発生し、被害が多様化しているため、対応が後手に回る場合がある。今後は捕獲のみにとどまらず、市民に対して鳥獣の正しい知識を周知し、事故等を未然に防止する必要がある。